

かさねの色目の花あそび No.2

【色目】梅 <表：白 裏：蘇芳>

No.1 の色目「雪の下」に続く今回の色目は、春の色目「梅」。雪の下で開花を待っていた梅の花が、いよいよ咲いた、とでもいう配色。それも、表の白は白梅の花びら、裏の蘇芳は萼（がく）の色で、紋所の裏梅のように、白梅を裏から眺めた色合わせのようだ。

ちなみに、紋所の裏梅は、紅梅をモチーフにしたものが主のよう。それから、かさねの色目において、この「梅」を「裏梅」と呼ぶ説もあるようだ（No.3 の色目「裏梅」参照）。

蘇芳色は黒みを帯びた赤色で、蘇芳というマメ科の染料植物を用いて発色。ちなみに、同じく春に、蝶型の花が枝を埋めつくす花蘇芳という花木は、その花色が蘇芳の染汁に似ていることから名づけられたそうだ。実際の花蘇芳の花色は、蘇芳色のような黒味はあまりなくて、どちらかというと赤紫だけだね。

花あそびでは、白いラナンキュラス（スピリットホワイト）と、黒カーネーションとでもいえそうな濃い赤のカーネーション（グレイス）を使用。だんだんいろんな葉っぱを足していった。

左 2 番目から順に、ハラン（天の川）、パセリリーフ、アスパラガスを足している。

花器の傍の白いものは、散ったラナンキュラスの花びらを収集。



あら不思議！ 白いラナンキュラスの花芯が、いつの間にかピンクに色づいた。→

ラナンキュラス 1 輪だけで色目「梅」になった感じ（ちょっとピンク系の蘇芳だけど）。



白色だけだったラナンキュラス（実際は、花芯が黄色がかったが）から、赤みがさしたラナンキュラスになり、また別作品へ。

最初の作品から幾変化の旅路を経て、最終的にこんな作品になった。